

令和 5 年度 氷見市教育委員会の事務の点検及び評価

調査報告書

令和 6 年 1 2 月
氷見市教育委員会

I 令和5年度点検及び評価実施方針

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくため、氷見市教育委員会の事務の管理及び執行状況について点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を実施する。

2 点検・評価の対象

第3期氷見市教育振興基本計画の施策に基づき、令和5年度に実施した事業について点検・評価を行う。

3 点検・評価の方法

(1) 自己点検評価

対象の事業について、教育委員会が点検・評価を行う。（別紙 体系図参照）

(2) 学識経験者の知見の活用

氷見市の教育に関し、氷見市教育振興委員会委員から教育委員会の自己点検評価結果に対する意見を聴取する。

学識経験者

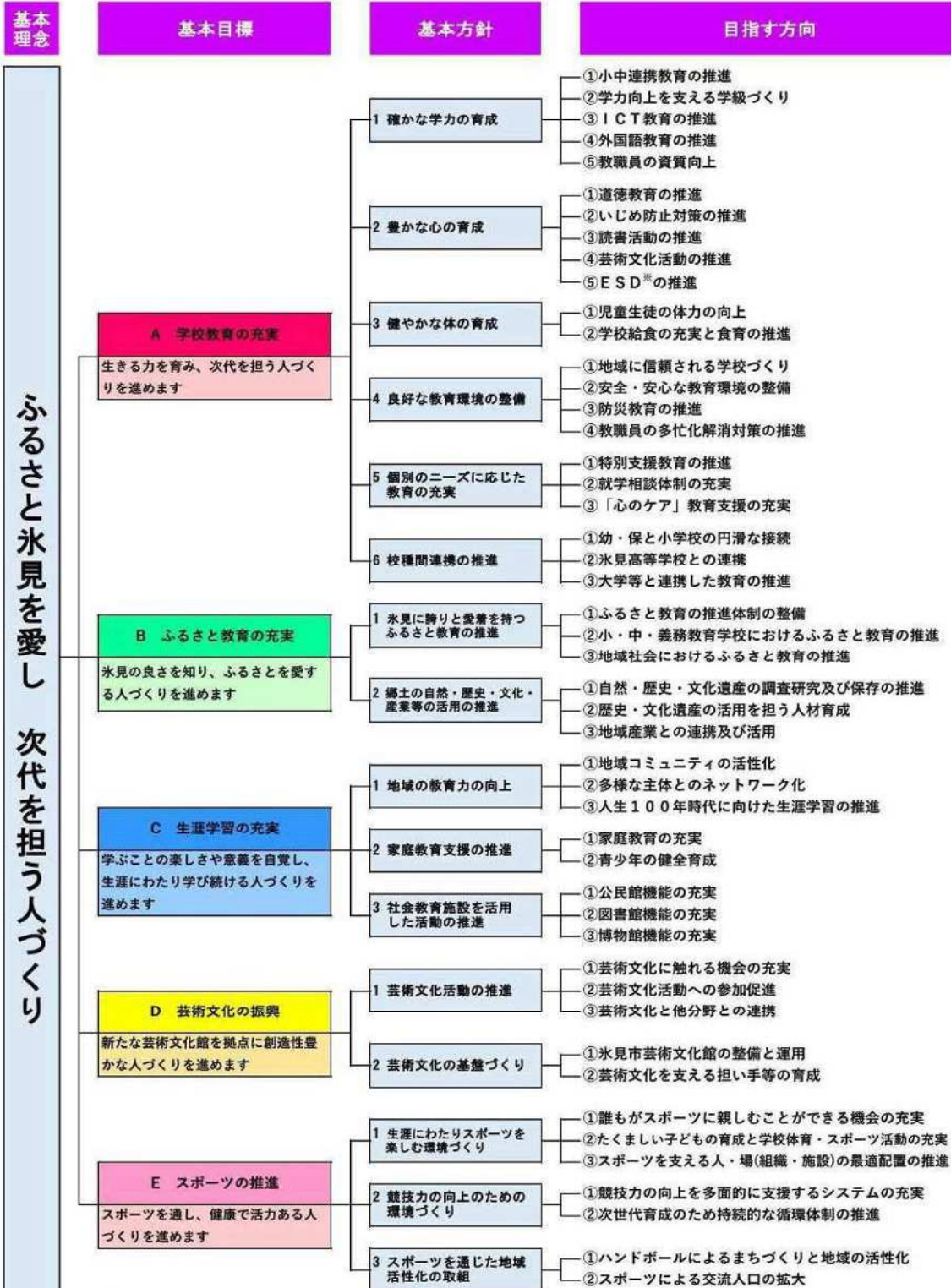
（敬称略）

辻井 満雄	富山国際大学 名誉教授
河上 昌俊	氷見市社会教育委員会 議長
西川 扇博	氷見市芸術文化団体協議会 会長
中舘 直浩	氷見市中学校長会 会長
笠島 一之	氷見市小中学校PTA連合会 会長

II 点検及び評価の結果

別紙「令和5年度事業の点検・評価シート」のとおり

第3期氷見市教育振興基本計画 体系図



※ ESD(Education for Sustainable Development)の略は「持続可能な開発のための教育」と訳されています。

環境、貧困、人権、開発といった様々な地球規模の課題について、自分のこととしてとらえ、その解決に向けて自分から行動を起こす力を身に付けるための教育です。

令和 5 年度
事業の点検・評価シート

氷見市教育委員会

令和5年度 事業の点検・評価シート

基本目標A 学校教育の充実 基本方針 1 確かな学力の育成

数値目標表中の「－」は、調査項目が無くなった、または、事業が実施されなかった

①小中連携教育の推進 (教育総合センター)

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
義務教育「9年間の学びをつなぐ、支援をつなぐ」をキーワードに、地域の特色を生かした学習活動を系統的・教科等横断的に、かつ継続的に行うとともに、小中共通の「学習上の規律」「生活上の規律」の見直し等を進めながら、歩調を合わせて生徒指導を行う小中連携教育の充実を図った。 ○中学校区で年間計画を作成し、組織的、計画的な実践を推進した。【交流、乗り入れ授業、授業参観等】 ○C R T、N R Tを実施し、その結果を基に適切な指導・支援の目標を設定して、個別指導や学級づくり等に生かした。 ○ふるさと教育推進委員による「ふるさと氷見」(冊子)の改訂及びH P「ふるさと氷見」の更新(内容の追加や写真・データの差し替え、解説文の導入等)を行った。 ○各中学校区の年間計画を共有するとともに、小中連携の先進的な事例を収集し、各学校の実践に役立てた。 ○校区で諸問題について共通理解したり、共に研修したりすることで、連携して課題を解決しようとする意識を高めた。	○各中学校区ごとに、定期的に推進委員会・連絡会議等を開催し、課題を共有して話し合ったり、児童生徒の様子や変容について情報交換したりすることで、小学校と中学校が連携・協働した「学びのつながり」「支援のつながり」を推進することができている。また、校区ごとに、その実情や特色を生かしながら、各種交流会や活動を実施することで、着実に小中連携が定着してきた。 ○指標数値については、小学校の値が低い。今後は、小学校と中学校が学習指導と生徒指導において、それぞれのよさや課題を理解し合い、学校が直面している課題を連携して解決していくことが、より一層重要である。 ○各種交流会や活動等が、児童生徒の確かな学力と豊かな心を身に付けさせる活動となっているか、中1ギャップを改善するような取組であるか、過度に教員の負担となっていないかなどを、各中学校区で話し合う場や機会を充実させるとともに、情報交換や意見交換等を計画的に行うことを通して、小中連携教育を一層推進していきたい。

	内容(指標)		実績値 (令和3年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
数 値 目 標	前年度までに、近隣等の中学校(小学校)と、教科的教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか【全国学力・学習状況調査:学校質問紙より】<「よく行った」「どちらかといえば、行った」と答えた学校の割合>	小学校	80.0%	50.0%	60.0%			100%
		中学校	60.0%	80.0%	100.0%			100%
	前年度までに、近隣等の中学校(小学校)と授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか【全国学力・学習状況調査:学校質問紙より】<「よく行った」「どちらかといえば、行った」と答えた学校の割合>	小学校	80.0%	50.0%	50.0%			100%
		中学校	80.0%	60.0%	100.0%			100%

② 学力向上を支える学級づくり (教育総合センター)

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
「令和のとやま型教育推進事業」の趣旨を踏まえ、学習指導要領における児童生徒の「資質・能力」を育成する学習指導や学級づくりを目指し、研修会の開催や中学校区で指定した研究協力校における実践的な研究を通して、市内小・中・義務教育学校に成果を広げた。 ○学力調査やW E B Q Uを活用した授業改善及び学級づくりの推進 ○「令和のとやま型教育推進事業」研究協力校の実践研究における成果の普及 ○学力向上に係る研修会の実施と教員の指導力向上への支援	○学力調査等の結果を分析し、授業改善に役立つ情報を提供するとともに、教員の指導力向上を目指す研修会を開催した。 ○「令和のとやま型教育推進事業」の研究協力校として、令和4・5年度の2年間にわたり、西條中学校区の小学校2校、中学校1校を指定し、授業研究や講師を招聘した研修会を通して実践研究を行った。今後は、1年毎に3校程度を研究協力校として指定し、「令和のとやま型教育推進事業」の趣旨を一層周知し、研究を推進していく。 ○各研究協力校の課題に応じて取り組んだ研究成果を啓発資料としてまとめ、配布を通じて市内小・中・義務教育学校へ普及を図った。 ○今後も研究協力校と連携し、課題解決型の授業づくりや、学び合う学級づくりを推し進めるなど、授業改善を図ることで、自分の考えをもち、意欲的に学ぼうとする児童生徒が増えるようにする。また、次年度は学力向上推進委員会を立ち上げ、推進委員を中心に学力向上策を協議し、実践につなげていく。

	内容(指標)		実績値 (令和3年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
数 値 目 標	学校へ行くのは楽しいと思いますか【全国学力・学習状況調査:児童生徒質問紙より】<「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた児童生徒の割合>	小学校	82.3%	85.0%	81.5%			90%以上
		中学校	80.3%	81.8%	84.9%			90%以上
	課題の解決に向けて、自ら考え、自分から取り組んでいましたか【全国学力・学習状況調査:児童生徒質問紙より】<「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合>	小学校	76.4%	79.9%	71.6%			90%以上
		中学校	76.2%	69.9%	75.7%			90%以上

令和5年度 事業の点検・評価シート

基本目標A 学校教育の充実 基本方針 1 確かな学力の育成

③ ICT教育の推進 (教育総合センター)

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
教員のICT活用指導力の向上、活用しやすい環境の整備に向け、教員のニーズに応じた研修会を開催したり、ホームページを活用して活用事例を紹介したりした。 ○研修会の開催 ・ICTを活用した授業づくり研修会(湖南小、十三中、西の杜学園) ・電子黒板・プログラミング教材活用研修会 ・eライブラリアドバンス活用研修会(オンラインで実施) ○ICT活用推進研修(各校にて) ○活用事例収集・ホームページ掲載	○各校の計画に基づいたICT活用校内研修の推進、各種研修会の実施により、電子黒板の活用は日常となり、タブレットPCの使用時間は増えている。 ○ICTを活用した授業づくり研修会や活用事例収集を通して、授業での活用事例等の共有ができた。 ○学校教育活動の様々な場面でのICT活用が進んできた。今後、学校全体でICTの効果的な活用に向けての研修の工夫が必要である。 ○教師のICT活用指導力に差があり、児童生徒の情報活用能力にも差が見られる。今後、体系表等を作成することによって児童生徒が身に付けなければならない力を明確にする必要がある。

数値目標	内容(指標)		実績値 (令和3年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	教職員と児童生徒がやりとりするようなコンピュータなどのICT機器を活用した取組を行った学校【全国学力・学習状況調査:児童生徒質問紙より】〈「よく活用している」「どちらかといえば、活用している」と答えた学校の割合〉	小学校	70.0%					100%
		中学校	60.0%					100%
	児童生徒同士がやりとりするようなコンピュータなどのICT機器を活用した取組を行った学校【全国学力・学習状況調査:児童生徒質問紙より】〈「よく活用している」「どちらかといえば、活用している」と答えた学校の割合〉	小学校	40.0%					100%
		中学校	40.0%					100%
	教職員と調査対象学年の児童生徒がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT器機をどの程度使用させていますか【全国学力・学習状況調査:学校問紙より】〈「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」「月1回以上」と答えた学校の割合〉	小学校		60.0%	80.0%			100%
		中学校		100.0%	80.0%			100%
	調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT器機をどの程度使用させていますか【全国学力・学習状況調査:学校問紙より】〈「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」「月1回以上」と答えた学校の割合〉	小学校		60.0%	80.0%			100%
		中学校		100.0%	60.0%			100%

④ 外国語教育の推進 (教育総合センター)

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
「外国語教育ひみプラン」の理念に基づき、外国語を用いて、ふるさと氷見のよさを発信できる児童生徒を育成するための外国語教育の充実を図った。 ○ふるさと教材「We Love HIMI!」二訂の活用 ○「ENGLISHセミナー2023」の開催 ○ALTの適切な学校配置と効果的な活用(ALT7名を市内小・中・義務教育学校に配置)	○ふるさと教材「We Love HIMI!」二訂の活用の推進とともに、「ENGLISHセミナー2023」の開催を通じて、ふるさと氷見のよさを見付け、写真や絵等の資料を提示したり表現方法を工夫したりして、外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童生徒を育成した。 ○学校へのALTの派遣に努め、外国語科の授業の充実を図った。今後もALTの適切な配置・活用、ふるさと教材の効果的な活用の推進について、各学校と連携しながら進めていく。 ○当初の数値目標となる指標(全国学力・学習状況調査:児童生徒質問紙の回答)について、小学校・中学校では、共に令和5年度に実施されなかったため、中学校で実施された参考となる指標の実績値を示した。

数値目標	内容(指標)		実績値 (令和3年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	5年生までに受けた英語の授業では、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか【全国学力・学習状況調査:児童生徒質問紙より】〈「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた児童の割合〉	小学校	74.4%	—	—			80.0%
	1・2年生のときに受けた英語の授業では、英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか【全国学力・学習状況調査:児童生徒質問紙より】〈「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた生徒の割合〉	中学校	62.9%	—	—			70.0%
	1・2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか。【全国学力・学習状況調査:児童生徒質問紙より】〈「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と答えた生徒の割合〉	中学校			75.9%			70.0%

令和5年度 事業の点検・評価シート

基本目標A 学校教育の充実 基本方針 1 確かな学力の育成

⑤教職員の資質向上 (教育総合センター)

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
今日的な教育課題への対応力を身に付け、主体的に学び続ける教員を育成するため、教員研修の充実を図った。 ○教員の指導力と資質向上を目指した研修会の開催 ・「令和のとやま型教育推進事業」による研修会、学力向上研修会、教育セミナー、ICTを活用した授業づくり研修会、生徒指導研修会、若手教員研修会等を行った。	○今日的な教育課題に対応した内容や教員のニーズに応じた研修会を企画、運営することにより、教員の資質向上につなげることができた。 ○若手教員が増加しており、様々な教育課題に対応する実践力や指導力を向上させるための研修会を充実させる必要がある。 ○令和5年10月に改訂された「富山県公立学校の教員等の資質向上のための指標」に基づき、その内容と結び付けたり、県の教職員研修と調整したりしながら、研修会を企画、運営する必要がある。

	内容(指標)		実績値 (令和3年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
数 値 目 標	教員は、校内外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加を含む)【全国学力・学習状況調査:学校質問紙より】「よくしている」と答えた学校の割合	小学校	70.0%	40.0%	50.0%			90%以上
		中学校	80.0%	60.0%	60.0%			90%以上
	教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか【全国学力・学習状況調査:学校質問紙より】「よくしている」と答えた学校の割合	小学校	60.0%	—	—			90%以上
		中学校	60.0%	—	—			90%以上

基本目標A 学校教育の充実 基本方針 2 豊かな心の育成

①道德教育の推進 (教育総合センター)

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
子供たちの豊かな心を育成するため、専門分野の講師を招き、研修会を開催した。 ○「生徒指導研修会」(児童生徒理解に関する研修) ○「若手教員研修会」(授業づくりに関する研修)	○生徒指導研修会では、生徒指導の観点から児童生徒理解を深めることができた。 ○授業づくり、学級経営についての研修会を開催することにより、授業を通して児童生徒理解を深めたり、児童生徒との関わりを学級経営に生かしたりする方策等について学ぶことができた。 ○道德教育の推進に向けて、児童生徒理解や授業づくりに関する研修を充実させ、今後は、子供たちが自己を見つめ自己の生き方についての考えを深める「考え、議論する道德」の実践や、地域社会と連携・協力した道德教育の推進に努めていく。

	内容(指標)		実績値 (令和3年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
数 値 目 標	自分にはよいところがあると思いますか【全国学力・学習状況調査:児童生徒質問紙より】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた割合	小学校	84.4%	81.9%	80.9%			90%以上
		中学校	71.3%	78.8%	84.6%			90%以上
	道德の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか【全国学力・学習状況調査:学校質問紙より】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた割合	小学校	76.4%	75.6%	76.9%			90%以上
		中学校	74.8%	71.5%	84.3%			90%以上

令和5年度 事業の点検・評価シート

基本目標A 学校教育の充実 基本方針 2 豊かな心の育成

② いじめ防止対策の推進（教育総合センター）

令和5年度実施事業（主な取組状況）	点検評価及び今後の方向性
市全体でいじめの未然防止等の対策を実効的に行うために、「いじめ問題対策連絡協議会」「いじめ問題専門家委員会」等を定期的に開催した。 ○いじめ問題対策連絡協議会の開催（年間2回） ・いじめ問題について話し合い、関係機関での情報共有・連携強化を図った。 ○いじめ問題専門家委員会の設置（定例会議を年間2回） ・専門的な見地から本市のいじめ問題の現状についての分析や対策の検討を行った。 ○氷見市いじめ調査の実施（各学期末に実施）	○関係機関での情報共有・連携強化により、いじめ問題の未然防止や早期発見、チームによる指導・支援に向けての意識向上につながった。 ○本市のいじめの現状について専門的な見地から助言を得ることができ、いじめ問題への対策やチームで対応する体制づくり等について理解が深まった。 ○いじめ問題対策連絡協議会の開催等により、関係機関との情報共有等を更に進める。今後も、「いじめ問題専門家委員会」等、専門的な見地から助言をいただきながら、様々な目で、きめ細かな児童生徒の見守りを進め、いじめの未然防止・早期発見に努める。

数値目標	内容(指標)		実績値 (令和3年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか【全国学力・学習状況調査：児童生徒質問紙より】（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合）	小学校	96.7%	97.3%	97.5%			100%
		中学校	95.8%	97.4%	97.2%			100%

③ 読書活動の推進（学校教育課）

令和5年度実施事業（主な取組状況）	点検評価及び今後の方向性
○学校図書館司書の配置 ・小学校、中学校、義務教育学校の全校に司書を派遣した。 ・図書館司書を対象に、図書館運営の充実を図る研修会を開催した。 ○小・中学校図書館図書購入事業 ・小中学校の図書館図書の充実を図るため、学校の規模や学級数に応じた購入費を配分し計画的な図書の購入を行った。	○図書の整理や廃棄を行い、児童生徒が興味を持つ図書を新たに購入するなど、ニーズに合った図書の充実を図っていく。 ○1/2成人式（小4）での図書館利用者カードの交付等、啓発の取組みを実施する。

数値目標	内容(指標)		実績値 (令和3年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	1日当たり、どれくらいの時間読書を読みますか【全国学力・学習状況調査：児童生徒質問紙より】（「30分以上」と答えた児童生徒の割合）	小学校	40.8%	36.5%	32.6%			50%
		中学校	28.7%	25.1%	30.3%			50%

④ 芸術文化活動の推進（文化振興課）

令和5年度実施事業（主な取組状況）	点検評価及び今後の方向性
○文化庁の学校巡回公演を小学校2校、中学校2校で開催（学校申込）。 ○小学校・義務教育学校5・6年生を対象に優れた芸術鑑賞機会を提供するため、小学校合同芸術鑑賞会を実施した。（11月、芸術文化館、舞台劇：銀河鉄道の夜） ○芸術家を学校等に派遣し参加型のコンサートを行うアウトリーチ活動を小学校8校、義務教育学校前期後期各1回実施した。	○各学校が文化庁主催の巡回公演等や市が実施するアウトリーチ事業を活用し、芸術文化に触れる機会を創出することができた。 ○今後も、引き続き子どもの芸術鑑賞・体験機会に努める。

数値目標	内容(指標)		実績値 (令和3年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	小・中・義務教育学校における芸術文化鑑賞会の開催（年に1回以上開催している学校の割合）	小学校	70.0%	80.0%	100.0%			90.0%
		中学校	60.0%	80.0%	60.0%			90.0%

令和5年度 事業の点検・評価シート

基本目標A 学校教育の充実 基本方針 2 豊かな心の育成

⑤ ESDの推進（教育総合センター）

令和5年度実施事業（主な取組状況）	点検評価及び今後の方向性
夢や希望をもって、たくましく生きる力を身に付けることができるよう、次の事業を行った。 ○「ひみっ子の夢と希望」きらめき推進事業 ・小学校・義務教育学校6年生 10月24日（火）井上貴信氏（チェロ）、戸島園恵氏（ピアノ）渋谷優花氏（ヴァイオリン）による音楽会 ・中学校2年生・義務教育学校8年生 11月14日（火）東京2020パラリンピック男子車いすバスケットボール銀メダリスト 宮島徹也氏による講演会（会場は小・中共に氷見市芸術文化館）	○「ひみっ子の夢と希望」きらめき推進事業は、小学校・義務教育学校は6年生を対象に音楽会を、中学校は、2年生・義務教育学校8年生を対象に、地元出身の著名人の講演を通して、未来に向かって自らを向上させようという心情を育むことができた。今後も、児童生徒が夢や希望をもって自分の生き方を見つめたり、体験を通して考えたりする場として継続していきたい。

数値目標	内容（指標）		実績値 （令和3年度）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 （令和8年度）
	地域や学校をよくするために何をすべきかを考えることがありますか【全国学力・学習状況調査：児童生徒質問紙より】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた割合	小学校	56.8%	—				65.0%
		中学校	52.9%	—				65.0%
	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか【全国学力・学習状況調査：児童生徒質問紙より】「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた割合	小学校		51.5%	77.0%			65.0%
		中学校		48.7%	72.2%			65.0%

基本目標A 学校教育の充実 基本方針 3 健やかな体の育成

① 児童生徒の体力の向上（学校教育課・スポーツ振興課）

令和5年度実施事業（主な取組状況）	点検評価及び今後の方向性
○市内各小学校において体力づくりノート「みんなでチャレンジ3015」を実施 ○市内の保育園、認定こども園で幼児対象の運動指導教室「出前体育屋」を実施 ※保育士・保育教諭も指導に参加し、補助の仕方や声掛け等を学び指導者の育成を行った。 ○日本体育大学との連携による、保育士、保育教諭、小学校教諭（低学年）等を対象に、「子どもの運動指導研修会」を実施 ○総合型地域スポーツクラブ「ふれんず」における、児童生徒を対象とした各種教室の実施 ○スポーツ少年団における各競技交流大会の実施 ○中学校運動部活動について、将来にわたりスポーツ活動ができる環境づくりについて検討	○令和5年度の体力・運動能力調査の結果、小5女子を除き県平均を上回った。また、本市の児童生徒は握力や50m走などの瞬発力、長座体前屈などの柔軟性が弱い傾向にある。しかしながら、運動好きな児童生徒の割合が小5男子以外では目標値である90%に達しなかった。特に中2女子に至っては68.8%とかなり低い割合となっており、スポーツ離れが危惧され、生涯スポーツを推進するうえで、マイナス要因となる。 ○まずは、幼少期に遊びながら身体の動かし方を学び、運動やスポーツの楽しさ、喜びを経験し、小・中・高校、そして生涯にわたりスポーツに親しむ環境をつくる必要がある。 ○また、子どもたちが個々に適した運動やスポーツができるような環境づくりを構築し、全ての子どもたちが運動やスポーツを楽しめるようにしていきたいと考えている。 ○スポーツ少年団活動を始める前の段階（4歳児から小学2年生）で、親子で体験できるスポーツ教室の機会を提供し、運動やスポーツに関心を持たせる必要がある。 ○市内小学校の親子活動に、スポーツ推進委員などを派遣し、ニュースポーツやゆるスポーツ「ハンギョボール」の体験会を積極的に実施し、運動が苦手な児童でもスポーツを楽しむことができ、運動・スポーツ好きの子どもを増やす必要があると考えている。 ○中学校運動部活動においては、平日は学校部活動として活動できる環境づくりを維持していく必要がある。（運動部活動の休日の地域移行）

数値目標	内容（指標）		実績値 （令和元年度）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 （令和8年度）
	体力・運動能力の総合評価実技調査T得点【全国体力・運動能力・運動習慣等調査より】〈小5中2男女県平均との差〉	小5男子	-0.4	-3.6	+1.5			毎年度男子・女子とも県平均を上回る
		小5女子	+1.2	+0.6	-0.1			
		中2男子	+1.3	+0.9	+2.3			
		中2女子	+4.9	+4.2	+0.6			
	「運動が好き」と回答した児童生徒の割合【全国体力・運動能力・運動習慣等調査より】〈「好き」「やや好き」と答えた児童生徒の割合〉	小5男子	89.9%	93.8%	92.6%			90%以上
		小5女子	85.0%	75.9%	89.2%			90%以上
		中2男子	89.2%	90.4%	87.9%			90%以上
		中2女子	78.9%	71.3%	68.8%			90%以上

令和5年度 事業の点検・評価シート

基本目標A 学校教育の充実 基本方針 3 健やかな体の育成

② 学校給食の充実と食育の推進(学校教育課)

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
○毎月、栄養教諭が作成した給食だよりを児童・生徒の保護者へ配付し、食事の大切さや食事のバランスの重要性について伝えた。 ○給食の時間や授業の中で、栄養教諭が食について指導を繰り返し行った。 ○地消の推進については、関係部署と連携し、地元食材を多く給食に取り入れることが出来た。毎月13日の「ひみの日」や11月の「学校給食とやまの日」にて、地元食材を活用した給食を提供している。	○小・中学校共に令和2年度より実績値は上昇した。特に、氷見産食材の利用割合は、令和2年度の約2倍になり関係者の努力が成果になった。 ○引き続き、食事(朝食)をバランスよく食べることの重要性を継続して伝えていくとともに、PTAと一層連携し、保護者への意識の浸透を図っていく。

	内容(指標)		実績値 (令和2年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
数 値 目 標	朝ごはんは3色バランスよく食べている児童生徒の割合	小学校	44.4%	46.5%	44.1%			50.0%
	赤…体の血や肉をつくる食品(魚・肉・大豆製品・乳製品)	中学校	51.4%	52.9%	49.1%			60.0%
	黄…体を動かす力になる食品(穀類・いも類・砂糖・油)	小学校	11.6%	20.9%	26.0%			40.0%
	緑…体の調子をととのえる食品(緑黄色野菜・その他の野菜・果物)	中学校	11.6%	20.9%	26.0%			40.0%

基本目標A 学校教育の充実 基本方針 4 良好な教育環境の整備

① 地域に信頼される学校づくり(学校教育課、教育総合センター)

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
○開かれた学校、地域に信頼される学校を目指した取組み ・学校関係者による学校評価を実施した。 (学校評議員を委嘱し、点検・評価を行うことによって、学校経営改善を図る) ・学校公開日、学習参観日を設定し、学校の様子を保護者や地域の方々に公開した。 ・地域人材の活用を図り、地域に根ざした教育活動に取り組んだ。 ・学校のHPを充実させ、学校での教育活動を広く発信した。	○学校の様子を保護者や地域の方に公開し、評価を得ることにより、様々な視点から見直しを図ることができ、学校経営の改善につながっている。 ○感染症対策等により、地域人材の活用を積極的に進めることが難しい行事もあったが、今後も可能な限り地域に根ざした教育活動に取り組み、信頼される開かれた学校づくりに努めたい。

	内容(指標)		実績値 (令和3年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
数 値 目 標	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている【全国学力・学習状況調査・学校質問紙より】〈「よくしている」と答えた学校の割合〉	小学校	40.0%	30.0%	40.0%			100%
		中学校	60.0%	20.0%	60.0%			100%
	指導計画の作成に当たり、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている学校【全国学力・学習状況調査・学校質問紙より】〈「よくしている」と答えた学校の割合〉	小学校	50.0%	50.0%	90.0%			80.0%
		中学校	40.0%	40.0%	60.0%			80.0%

令和5年度 事業の点検・評価シート

基本目標A 学校教育の充実 基本方針 4 良好な教育環境の整備

② 安全・安心な教育環境の整備(学校教育課)

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
○使用頻度の高い特別教室の空調設備の整備計画を検討した。	○令和7年度から令和10年度にかけて計画的に空調設備を整備する。 対 象：小学校8校（比美乃江小、宮田小、窪小、湖南小、十二町小、上庄小、海峰小、灘浦小） 対象室：通級教室、音楽室、理科室、図書室、図工室、家庭科室、生活科室等

数 値 目 標	内 容 (指標)	実績値 (令和2年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	小・中・義務教育学校における特別教室のエアコン設置率	27.6%	34.3%	34.3%			48.5%

③ 防災教育の推進（学校教育課）

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
○実践的な防災教育の推進 ・各学校では、危機管理マニュアルの見直しや防災訓練の実施により、一層実践的な防災指導計画となるように努めた。 ○市防災担当や関係機関との連携 ・実際の災害時（洪水・豪雪）に迅速な対応、適切な指導ができるように関係機関との連絡・調整を図った。	○各学校における、危機管理マニュアル及び防災指導計画の見直し及び防災訓練の実施については適切に実施できている。 ○学校への不審者進入、登下校における不審者対策、登下校時における地震発生に伴う落下物・倒壊物への対策、さらに洪水や豪雪に伴う対策など、学校だけでは対応できないことも多くあるため、地域や関係機関との連携をさらに充実させる必要がある。

数 値 目 標	内 容 (指標)		実績値 (令和2年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	前年度の成果と課題を踏まえ、毎年、防災教育推進計画及び防災指導計画について見直しを行う学校の割合	小学校	100.0%	100.0%	100.0%			100%
		中学校	100.0%	100.0%	100.0%			100%
	児童生徒の危険回避能力を向上させる実践的な安全教育を年間指導計画に位置づけて実施する学校の割合	小学校	100.0%	100.0%	100.0%			100%
		中学校	100.0%	100.0%	100.0%			100%

令和5年度 事業の点検・評価シート

基本目標A 学校教育の充実 基本方針 4 良好な教育環境の整備

④ 教職員の多忙化解消対策の推進（学校教育課）

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
○教員の勤務実態の把握 ・校務支援システムにより、毎月の出退勤時刻を翌月5日までに報告している。 ○超過勤務時間の縮減に向けて ・各学校での業務改善 ・学校行事の見直しや準備の簡素化、地域行事との合同開催 ・学習サポーター、スタディメイト、部活動指導員の配置 ・教員の部活動指導に係る時間を軽減するため、部活動を実施しない日の設定や活動時間の順守を徹底	○市内学校長会議等を通して、超過勤務時間の縮減に向けて、各学校の取組状況や課題について共通理解を図ることができた。 ○学校行事の見直し等により、平日の超過勤務時間は一定の減少が見られる。今後も、各学校の取組状況や課題について共通理解を図りながら、超過勤務時間の縮減に向けて取り組んでいく。 ○部活動の段階的な地域移行を進める。

	内容(指標)	実績値 (令和2年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
数 値 目 標	小学校教員(教諭・臨任講師・養護教諭・栄養教諭・栄養職員)の1月あたりの超過勤務時間を45時間以内とする。	超過時間(平均) 小学校49時間53分 平日48時間20分 休日1時間32分	超過時間(平均) 小学校40時間25分 平日40時間00分 休日0時間25分	超過時間(平均) 小学校36時間22分 平日36時間06分 休日0時間16分			超過時間(平均) 45時間00分以内
	中学校教員(教諭・臨任講師・養護教諭・栄養教諭・栄養職員)の1月あたりの超過勤務時間を20%程度縮小する。	超過時間(平均) 中学校65時間57分 平日54時間7分 休日11時間50分	超過時間(平均) 中学校51時間34分 平日42時間58分 休日8時間36分	超過時間(平均) 中学校44時間23分 平日36時間27分 休日7時間56分			超過時間(平均) 52時間00分以内

基本目標A 学校教育の充実 基本方針 5 個別のニーズに応じた教育の充実

① 特別支援教育の推進（学校教育課）

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
○講習会（WISC-V）は再開されたが、教員は現在の受講資格に該当しないため、受講が難しい状況である。 ○特別支援専門員の教育相談のための学校訪問の実施・ケース会議への参加。	○今年度も、教員の派遣はできていない。今後も、情報収集をしっかり行い、受講が可能になり次第教員を派遣できるようにしたい。 ○心理検査（特性を捉えて指導の参考にするため・学びの場の見直しを考えるため等で実施）の結果報告を臨床心理士と共に学校へ出向いて行っている。保護者面談・学校との懇談を行い、保護者にとっても担任にとっても、子供との向き合い方を考える良い機会になっていると思われるので、継続していきたい。

	内容(指標)	実績値 (令和2年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
数 値 目 標	WISC-IV技術講習会修了教員の配置数	2人	0人	0人			5人
	特別支援専門員の配置数	1人	1人	1人			1人

令和5年度 事業の点検・評価シート

基本目標A 学校教育の充実 基本方針 5 個別のニーズに応じた教育の充実

② 就学相談体制の充実（学校教育課）

令和5年度実施事業（主な取組状況）	点検評価及び今後の方向性
○地区相談会に言語聴覚士と作業療法士を4回ずつ配置している。臨床心理士は毎回参加している。 ○医師・臨床心理士・作業療法士・特別支援専門員による小学校等訪問（10校）の実施。	○言語聴覚士と作業療法士のいずれかを毎回配置し、発達障害に対する専門性のある臨床心理士が毎回参加していることにより、保護者のニーズや児童生徒の実態に応じた相談ができています。 ○医師との学校訪問の際に医師を受診している児童の学校での様子を見てもらい、より詳しく児童の実態を知ってもらうことができています。また、学校が気になっている児童の情報を医師と共有し、必要に応じて医療との連携を進めることができています。今後も医師と学校との情報共有を継続し、指導に役立てていきたい。また、今年度から同行している作業療法士が、落ち着きのない児童についてアドバイスを行っている。

数値目標	内容(指標)	実績値 (令和2年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	市地区相談会における専門スタッフの配置率	70.0%	100.0%	100.0%			100%
	医師(教育支援委員会委員)の小学校・義務教育学校(前期課程)10校の訪問	0%	100.0%	100.0%			100%

③ 「心のケア」教育支援の充実（教育総合センター）

令和5年度実施事業（主な取組状況）	点検評価及び今後の方向性
様々な悩みを抱える児童生徒の自立を支援するために次の事業を行った。 ○教育相談 ・電話相談、来所相談、訪問相談 ○教育支援センター「あさひ」 ・不登校児童生徒が安心して学ぶことができる居場所づくり（教育相談員4名） ○WEBQ Uを活用した学級づくりと研修会の開催 ○SSW等連絡協議会の開催（各機関との連携強化）	○支援が必要な児童生徒や保護者に対して、学校、SCやSSW、関係機関と連携して支援に当たることができた。 ○教育相談や教育支援センター「あさひ」への通室を通して、児童生徒の抱えている悩みを本人、保護者、学校等と共有し、一貫した支援を行うことで、悩みが軽減され、状況が好転する事例がみられた。 ○不登校児童生徒の出現率は全国平均以下を維持しているが、全国での出現率が大幅に増加しており、本市でも、小・中・義務教育学校での出現率は、いずれも増加傾向にある。今後も学校や関係機関との連携を密にし、継続して支援に当たるとともに、研修の充実や相談体制の整備を図り、不登校の未然防止と、児童生徒の心のケアに努めていきたい。

数値目標	内容(指標)	実績値 (令和2年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	不登校児童生徒の出現率	全国平均以下	全国平均以下	全国平均以下			全国平均以下

令和5年度 事業の点検・評価シート

基本目標A 学校教育の充実 基本方針 6 校種間連携の推進

① 幼・保と小学校の円滑な接続（教育総合センター）

令和5年度実施事業（主な取組状況）	点検評価及び今後の方向性
幼・保・小の円滑な接続を図るため、小学校区ごとに年間計画（「氷見版スタートカリキュラム」、校区ごとの「わくわく・きときとカリキュラム」）を作成して支援・協力体制を構築するとともに、教職員の資質向上を目的とする研修会や情報交換、相互訪問、交流活動等を行った。 ○幼・保・小接続研修会の開催（講演会、学習公開、校区ごとの情報交換等） ○年度初めの情報交換会、小学校教諭による保育所体験 ○年長児による小学校生活体験会（学校見学、授業見学、授業体験、給食体験等） ○保育所等巡回相談への小学校教員の参加	○校区ごとの年間計画に基づいて取り組むことにより、幼・保・小の教職員による情報交換や相互訪問等が実施され、接続を意識した継続的な指導を行うことができた。アンケート項目について分かりやすく説明したことにより、幼・保・小接続についての理解が促され、取組状況への意識が高まった。 ○「氷見版スタートカリキュラム」の普及に努めるとともに、交流が日常化するような支援を講じていく必要がある。 ○市役所子育て支援課と教育総合センターが連携を密にして、これまでの実績や校区の特色を生かし、氷見市独自の幼・保・小接続を推し進めていく必要がある。

数値目標	内容（指標）	実績値 （令和3年度）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 （令和8年度）
	あなたのところの「富山版 接続期カリキュラム」における「幼保小接続ステップ」は、どこだと思われませんか【幼保小接続研修会参加者（年長及び小学1年生担任）アンケートより】「ステップ3」以上と答えた小学校・義務教育学校・園の割合	小	70.0%	20.0%	100.0%		80.0%
		園	57.0%	38.5%	100.0%		80.0%

② 氷見高等学校との連携（文化振興課）

令和5年度実施事業（主な取組状況）	点検評価及び今後の方向性
○インターンシップ等の受入 ・海洋科学科2年生生徒2名を5日間インターンシップで受入れ、魚類調査の体験実習を行った。また、海洋科学科生徒1・2年を対象に、イタセンパラ保護池での体験実習を行った。 ○富山大学理学部教員の文理探究コース（2学年）での指導 ・6月に理学研究の基礎について講義し、9月の課題研究発表会での助言を行った。ひみラボを拠点とし、河川水からイタセンパラのDNAを抽出するなど、最先端の研究を氷見高生に指導した。 ○HIMI学における指導助言 ・普通科および海洋科学科の授業や発表に際し、学芸員が氷見高校での指導を行った。 ○青少年健全育成に関して、非行防止標語の募集や氷見高校生の意見発表など、連携して取り組んだ。	○インターンシップについては、ひみラボでの活動が海洋科学科と親和性が高い。ひみラボでのインターンシップは、イタセンパラの調査に加え、レッドデータブックにおける魚類調査の補助や進学についての具体的な話し合いを行うことから、生徒が面接を受ける際の有効な武器となりうる。これまでにひみラボでインターンシップを体験した海洋科学科の学生は、福井県立大学や水産大学校などに進学している。 ○HIMI学では海洋科学科に限らず、普通科やビジネス化とも連携し、イタセンパラを一般化する取り組みを実施している。令和5年度はイタセンパラを知ってもらう方策の1つとして、山岸ちまき本舗に協力をいただき、イタセンパラのどら焼きを作成し、販売するに至った。

数値目標	内容（指標）	実績値 （令和2年度）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 （令和8年度）
	富山大学教員及び学芸員の氷見高校への派遣回数	6回	6回	8回			10回

令和5年度 事業の点検・評価シート

基本目標A 学校教育の充実 基本方針 6 校種間連携の推進

③ 大学と連携した教育の推進（文化振興課）

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
○富山大学理学部・氷見市連携研究室「ひみラボ水族館」（旧仏生寺小）の管理をNPO法人Bioクラブに委託し、市内に生息する淡水魚及びミニブタ・リクガメ等の展示を行った。 ○十二町潟のオニバスが発生しない原因について、神戸大学、岡山大学、岡山理科大学および富山県立大学に協力を依頼して調査を進めた。 ○イタセンバラの分散原因把握のため、京都大学、九州大学、大阪医科薬科大学らと共同研究を行った。	○「ひみラボ」は富山大学理学部と連携した研究拠点として、学術的成果を上げている。 また、「ひみラボ水族館」は富山大学理学部と連携した施設として、年間1万人を超える親子が訪れる施設となり、子どもたちの自然学習や体験の場としての役割を果たしている。 ○引き続き富山大学との連携を継続し、市内の子どもたちに学習機会を提供していく。 ○富山大学に限らず、他大学と連携した研究の展開も視野に入れて進めて行く。

数 値 目 標	内容(指標)	実績値 (令和元年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	ひみラボ水族館の入館者数	7,174人	10,835人	14,963人			9,000人

令和5年度 事業の点検・評価シート

基本目標B ふるさと教育の充実 基本方針 1 氷見に誇りと愛着を持つふるさと教育の推進

①ふるさと教育推進体制の整備（文化振興課）

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
○文化振興課に本市の歴史や文化についての問合せへの対応や、資料の紹介などを行うための「ふるさと教育相談窓口」を設けた。	○「ふるさと教育相談窓口」の周知を図るとともに、学校・家庭・地域・企業等が一体となって推進する体制づくりに向け、ふるさと教育の現状について関係する部署間で情報共有や意見交換を実施する。

数値目標	内容(指標)	実績値 (令和2年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	氷見が好きですか【市民アンケートより】(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた人の割合)	83.4%	82.1%	85.0%			85.0%

②小・中・義務教育学校におけるふるさと教育の推進（文化振興課）

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
○各学校では、総合的な学習の時間で地域の宝さがし、伝統文化、そしてそれらに関わる人々との関わりを通して「ふるさと氷見」について学習した。 ○ふるさと氷見に親しむ日（7月14日）の実施 児童生徒に祇園祭の歴史等についての資料を配布し、祇園祭開催当日、市内小中学校等で午後を放課として祭りへの参加を促することで、ふるさと氷見への愛着を醸成した。 ○ふるさと発見塾の実施 市内の全中学1年生を対象に、市内の史跡（大境洞窟住居跡・柳田布尾山古墳）や天然記念物（イタセンバラ）を実際に見学し、郷土を知り、郷土を愛する心を育てるとともに、社会科・理科の学習意欲の向上を図るため、実施している。 ○幕末の剣豪斎藤弥九郎没後150年を記念して、その生涯について学ぶため作成した「マンガ本」を、小学6年生全員に配布しPRに努めた。	○各学校で工夫しながら「ふるさと教育」に取り組んできた。今後も、様々な機会、教材等を活用しながら、ふるさと氷見に誇りと愛着を持つ児童・生徒の育成に継続的に取り組む。

数値目標	内容(指標)		実績値 (令和3年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	今住んでいる地域の行事に参加していますか。【全国学力・学習状況調査：児童生徒質問紙より】(「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と答えた児童生徒の割合)	小学校	66.7%	69.3%	66.6%			80.0%
		中学校	66.4%	66.5%	67.0%			80.0%

令和5年度 事業の点検・評価シート

基本目標B ふるさと教育の充実 基本方針 1 氷見に誇りと愛着を持つふるさと教育の推進

③ 地域社会におけるふるさと教育の推進（文化振興課）

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
○市内地区公民館21館で各種教養講座や体験事業など地域に根差した公民館事業を展開した。 ○地域コミュニティ活性化事業の実施 地域特色事業として14公民館47事業を計画したが、6事業が開催中止となり、14公民館41事業の実施となった。	○地域に対する愛着と帰属意識を育み、自分事として地域の将来について考える人材を育成するために、引き続き、地区公民館におけるふるさとの自然や歴史、暮らし、産業などを学び・親しむ機会の充実に努める。

数値目標	内容(指標)	実績値 (令和2年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	氷見に住みたいと思いますか【市民アンケートより】(「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた人の割合)	79.4%	77.9%	80.0%			85.0%

基本目標B ふるさと教育の充実 基本方針 2 郷土の自然・歴史・文化・産業等の活用の推進

① 自然・歴史・文化遺産の調査研究及び保存の推進（博物館）

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
○蓮乗寺所蔵の市指定文化財「蓮乗寺の梵鐘」説明板補修にあわせて、令和2年度に市指定文化財に指定された「絹本着色宝塔絵曼荼羅図」の説明を追加した。 ○宇波ヨシダ遺跡、NEJ-29遺跡の試掘調査、加納横穴群・加納蛭子山古墳群の測量調査を実施した。 ○民俗文化財や天然記念物、名勝の保護に努めた。(イタセンパラ、オニバス、蛇が島、朝日社叢等) ○オニバス発生地有害生物の駆除調査及び発芽試験を行い、オニバスの再生方法を模索した。 ○保護池、矢田部川、万尾川などで、イタセンパラの成長・繁殖等のモニタリング調査を実施した。	○能登半島地震に伴い未指定文化財等の被害状況の把握が最優先事項となったためあつて、市指定文化財の件数は目標値には届かなかった。 ○その一方で、文化財レスキューの実施によって、未指定文化財の保護・活用についても一定の成果を得ることができた。 ○今後は、文化財保存活用地域計画策定の準備を進めるとともに、市内文化財の把握に努め、保護・活用を進める。

数値目標	内容(指標)	実績値 (令和2年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	市指定文化財の件数	51件	51件	51件			55件
	未市指定文化財の把握	10件	20件	60件			100件

令和5年度 事業の点検・評価シート

基本目標B ふるさと教育の充実 基本方針 2 郷土の自然・歴史・文化・産業等の活用の推進

② 歴史・文化遺産の活用を担う人材育成（文化振興課・博物館）

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
○イタセンバラ守り人の登録を進めた。 ○「イタセンバラ保護と水田の水管理が一体となった暮らし」を観光資源として発信するために、イタセンバラ守り人を対象とし、QRコードを使ったイタセンバラアクアツリズムツアーを実施した。（実施日：10月22日、参加数：35人 石川県、岐阜県、群馬県からの県外からも参加） ○イタセンバラを含む希少種などの理解を深めるために、富山大学教員と学芸員が連携し、親子イタセンバラ教室を実施した。（実施日：6月18日、9月3日、参加数：親子 計23名（親16名、子14名）	○イタセンバラ守り人の登録は150名を超えた。 ○十二町地区地域づくり協議会が十二町湧水郷公園を活用したイベントをしたいとの話が出ており、イタセンバラ・オニバスを絡めながら、イタセンバラ・オニバスの保護の担い手を増やしていきたい。

数値目標	内容(指標)	実績値 (令和2年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	イタセンバラ守り人の登録者数	78人	117人	151人			130人

③ 地域産業との連携及び活用（学校教育課）

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
○社会に学ぶ「14歳の挑戦」推進事業 働くことの意義や楽しさ、厳しさなどについて、受入先として協力いただいた地域の企業や個人事業主の方々と連携して、生徒たちが社会生活を営む上での規範意識を高める取組を推進した。	○地域での職場体験活動や、福祉・ボランティア活動に参加することにより、規範意識や社会性を高め、将来の生き方や地域産業について深く考えることができた。今後は受入事業所の数や業種を広げ、より地域産業を身近に感じられる取組をする。

数値目標	内容(指標)	実績値 (令和2年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	中学校・義務教育学校(後期課程)において地域産業を学習する割合	100.0%	100.0%	100.0%			100%

令和5年度 事業の点検・評価シート

基本目標C 生涯学習の充実 基本方針 1 地域の教育力の向上

① 地域のコミュニティの活性化（文化振興課）

令和5年度実施事業（主な取組状況）	点検評価及び今後の方向性
○各公民館では各種教養講座を開催した。また、パークゴルフ大会や早朝健康ウォーキングなどの実施に加え、防犯パトロールの実施や防災意識の啓発な事業に取り組むなど、地域住民のコミュニケーションの活性化や、地域を守るための事業を進めた。 ○令和5年度末現在、市内15地区で地域づくり協議会が設立され、地域課題解決の活動が始まっている。	○各公民館では地域コミュニティの活性化を図るため各事業を実施し、地域の課題に関する講座の開催等にも取り組んだ。 ○今後、国で新たに制度化された社会教育士の必要性の周知を図り、資格取得に向けた取り組みを進める。

数値目標	内容(指標)	実績値 (令和2年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	社会教育士資格取得者数	1人	0人	0人			5人

② 多様な主体とのネットワーク化（文化振興課）

令和5年度実施事業（主な取組状況）	点検評価及び今後の方向性
○各公民館では、様々な主体と連携・協力しながら事業に取り組んだ。特に独立公民館では、各公民館が情報共有、連携強化し、それぞれの事業を積極的に実施した。（例 窪…男性料理教室やカラーリング教室の実施など。阿尾…ペタンク大会の開催など。速川…西の杜学園児童と協力した稲作、畑作体験事業の実施など。また多くの地区で地域の各種団体と連携した公民館まつりを実施した。）	○各公民館は社会教育団体や福祉関係団体等他分野の団体とのネットワークの強化に努めた。 ○今後、社会教育ネットワーク会議開催のため、基盤整備のための計画づくりと研修会を開催し、第3期計画期間中の開催を目指す。

数値目標	内容(指標)	実績値 (令和2年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	社会教育ネットワーク会議の開催数 (社会教育関係職員、社会教育委員、社会教育団体、地域づくりNPO等)	0回	0回	0回			1回

③ 人生100年時代に向けた生涯学習の推進（文化振興課・博物館）

令和5年度実施事業（主な取組状況）	点検評価及び今後の方向性
○芸術文化館、地区公民館、造形芸術センターでは、高齢者を含む多くの市民の生涯学習の場として、各種講座やサークル活動が行われた。 ○博物館では、地域に「届ける生涯学習」として出張回想法に取り組み、12件を実施した。	○芸術文化館や地区公民館、造形芸術センターで開設された各種講座に多くの市民が参加している。また、市内で活動する各種サークルの活動の場を提供することで市民の学習活動を支援した。 ○出張回想法については、コロナ禍の影響から高齢者が集う機会が減少し、出張回想法の実施要望も低い状況にあった。今後、高齢者の集う機会の再開に伴い、出張回想法の要望も回復が見込まれる。

数値目標	内容(指標)	実績値 (令和2年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	博物館入館・資料利用者数	年間 7,837人	年間 8,978人	年間 10,261人			年間 9,000人以上
	地域回想法を体験した人数	1,186人	284人	828人			1,500人

令和5年度 事業の点検・評価シート

基本目標C 生涯学習の充実 基本方針 2 家庭教育支援の推進

① 家庭教育の充実（文化振興課）

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
○市内の小・中および義務教育学校と、保育園・認定子ども園、子育てサークル等で親学びプログラムを活用した学習会を実施した。	○引き続き、PTAや学校と連携し、多様な「親学び」を実践し、家庭教育の充実を図る。 ○親学びファシリテーターの養成のため、年に1回以上のファシリテーター養成講座を開催する。

数値目標	内容(指標)	実績値 (令和2年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	小・中・義務教育学校での「親学びプログラム」等を用いた講座の実施率	100.0%	78.6%	92.8%			100%

② 青少年の健全育成（文化振興課）

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
○放課後子ども教室（9教室）、土曜教室（4教室）、中学生未来応援塾（5教室）を開催し、地域住民の指導のもと、延べ412名の児童生徒が放課後や土曜日の学びや体験活動に参加した。 ○青少年関係団体で構成する青少年育成氷見市民会議や富山県青少年育成県民運動推進指導員、少年補導員と協力して、氷見高校とのさわやか運動を実施した。 ○少年補導センターでは毎月定期的な巡回指導を行うとともに、学校・PTAと連携し街頭指導に取り組んだ。 ○青少年育成氷見市民会議と連携し、青少年意見発表大会や、非行防止標語を市内中学校、高校から募集し氷見市内各所に優秀作品のポスター掲示による普及を図った。	○少年補導員や富山県青少年健全育成推進指導員をはじめとした地域の人材をの協力のもと、青少年の健全育成活動や放課後等の学びや体験活動の実施を推進する。

数値目標	内容(指標)	実績値 (令和2年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	ネットトラブルに関わる指導を行いましたか。(氷見市いじめ調査、各校からの回答)	100.0%	100.0%	100.0%			100%

基本目標C 生涯学習の充実 基本方針 3 社会教育施設を活用した活動の推進

① 公民館機能の充実（文化振興課）

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
○地域コミュニティ活性化事業 地域ごとに特色ある公民館活動を目指し、各公民館から提案のあった特色ある事業を支援した。 令和5年度は、14館47事業が計画されたが、6事業が開催中止となり、14館41事業となった。	○開催中止となった事業もあるが、公民館ごとに特色のある事業を企画し、住民ニーズに即した事業展開が図られた。 ○公民館ごとに特色のある事業を企画・実施しており、令和4年度から実施館数、実施事業数ともに増加した。ふるさと教育の一層の推進という観点からも、他公民館の事例を提供するなど全公民館が取り組むよう今後とも働きかけていく。

数値目標	内容(指標)	実績値 (令和2年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	地域コミュニティ活性化事業(地域特色事業費分)を実施する公民館の数及び事業数	10公民館 25事業	13公民館 39事業	14公民館 41事業			21公民館 50事業

令和5年度 事業の点検・評価シート

基本目標C 生涯学習の充実 基本方針 3 社会教育施設を活用した活動の推進

② 図書館機能の充実（図書館）

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
○図書館管理運営事業 ①蔵書状況 受入冊数：図書5,259冊（うち購入4,999冊） 蔵書冊数：図書266,864冊・視聴覚資料（CD・DVDなど）4,558点 ②図書館の利用状況 貸出登録者数：3,233人（前年3,252人） 貸出人数：41,971人（前年42,544人） 貸出冊数：154,964冊（前年163,338冊） ○移動図書館車管理事業 52箇所に、冬期間（1～2月）を除いて通年実施（小学校は8月、1～3月巡回なし）。 延べ巡回数：468回（前年477回） 貸出冊数：24,441冊（前年23,812冊） ○電子図書館サービス ライセンス数：3,449点 購入数：300点 貸出数：537点（前年1,647点） ○豊かな読書環境推進事業 小学校、保育園等への巡回貸出 13,450冊（前年13,450冊）	○令和6年1月1日に発生した能登半島地震による建物等の復旧工事のため、1月5日から11日まで臨時休館するなど、少なからず地震の影響により貸出人数、貸出冊数ともに減少しており、今後は来館者の増加につなげるよう、市民の読者ニーズを把握し、ニーズに沿った資料の収集・提供を行うことができるよう図書館資料の充実を図る。 ○移動図書館の貸出冊数は増加しており、今後は移動手段が少なく、図書館への往来が困難な住民から公民館への巡回要望があることから、現在の移動図書館車をバス型からトラック型へ小型化し、車両の更新ができるよう国、県へ要望しており、実現できれば、これまで巡回できなかった公民館へも巡回させることが可能となり、市内全域での本を届けるなどの公共サービスの提供につなげる。 ○電子書籍のライセンス数は年々、増加しており、今後は図書館ホームページを改善し、利用者サービスの向上や情報提供の拡大を図る。 ○小学校、保育園等への巡回貸出を通して、児童・幼児の読書機会を増やすとともに、学校図書館司書と連携し、子どもたちの学習環境を整え、授業や朝読書に役立ててもらうため、学校図書館への支援と連携など、今後も継続して、子どもの読書活動の推進を図る。

数値目標	内容(指標)	実績値 (令和2年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	人口1人当たりの年間貸出冊数	3.4冊	3.7冊	3.6冊			3.8冊

③ 博物館機能の充実（博物館）

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
○特別展「うらぐわし布施水海」—十二町湯の考古と民俗— 令和5年10月20日～11月12日 入館者数 1,233人 ○特別展「氷見の菓子」—菓子づくりからみる氷見の文化— 令和6年2月24日～3月19日 入館者数 1,204人	○「うらぐわし布施水海」と「氷見の菓子」をテーマとした特別展を開催して、地域の文化財を広く公開した。 ○今後も博物館の研究成果の公開活用のため引き続き年2回の特別展開催に努める。

数値目標	内容(指標)	実績値 (令和2年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	(再掲)博物館入館・資料利用者数	年間 7,837人	年間 8,978人	年間 10,261人			年間 9,000人以上
	博物館収蔵資料数	総数 126,374点	総数 127,258点	総数 128,014点			総数 130,000点

令和5年度 事業の点検・評価シート

基本目標D 芸術文化の振興 基本方針 1 芸術文化活動の推進

① 芸術文化に触れる機会の充実（文化振興課）

令和5年度実施事業（主な取組状況）	点検評価及び今後の方向性
○氷見市芸術文化館の主催事業として、クラシックコンサート、写真・彫刻展、アールブリュット作品展、歌舞伎公演、落語公演など（全10シリーズ）を開催した。 ○氷見市文化祭を開催した。（日本舞踊のつどい、氷見市菊花大会、謡曲大会、氷見川柳大会、高志俳句大会、短歌大会、男声合唱団ひみ演奏会、氷見市美術協会会員展、全国・県内公募展入選者展、民謡民舞まつり、氷見市吟道大会、合同茶会、合同華道展、氷見市総合芸能大会）※新春邦楽大会は能登半島地震のため中止 ○10月の期間中、氷見市美術展覧会を開催した。	○能登半島地震の影響により、一部中止や延期となった事業があったが、芸術文化館MINIATURE LIFE展を中心に多くの来場者があり、目標値を上回った。 ○引き続き芸術文化に触れる機会の充実に取り組む。

数値目標	内容（指標）	実績値 （令和元年度）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 （令和8年度）
	市や、一般財団法人氷見市文化振興財団が提供した鑑賞機会に参加した人数	5,097人	39,685人	35,971人			10,000人

② 芸術文化活動への参加促進（文化振興課）

令和5年度実施事業（主な取組状況）	点検評価及び今後の方向性
○一人ではホールに来ることができない子どもたちや高齢や障害等身体的理由等でホールに来ることができない方のために、学校や高齢者福祉施設、障害者支援施設等へ出向き、文化芸術に触れる機会を提供した。 ○学校等での参加型体験コンサート、出前寄席を実施したほか、ダンスワークショップや声楽家による合唱指導など様々な体験活動を実施した。 ○文化庁伝統文化親子教室を4団体で開催し、小学生らに伝統文化を継承する活動を通して、指導者と小学生親子が世代間交流を広げた。 ○氷見第九演奏会事業として5月と12月にコンサートを開催したほか、PRキャラバンや他市コンサートに参加するなど交流を行った。	○アウトリーチ活動を積極的に取り組んだ結果、目標値を大きく上回る参加者数を達成することができた。 ○今後もアウトリーチ活動及び小学生から高齢者まで市民の誰もが芸術文化活動に参加できる機会の創出に努める。

数値目標	内容（指標）	実績値 （令和2年度）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 （令和8年度）
	アウトリーチ活動参加者数	340人	1,396人	1,296人			500人

③ 芸術文化と他分野との連携（文化振興課）

令和5年度実施事業（主な取組状況）	点検評価及び今後の方向性
○参加型事業 「氷見小中高生オリジナル音楽劇」の公演に向けたワークショップを開催したほか、育児世代や障害のある方等を対象に芸術文化に触れる機会を提供した。	○「福祉＋アーツ」事業の名称ではなく、「参加型」事業の枠組みとして、様々な分野と連携し次年度以降も取り組む。

数値目標	内容（指標）	実績値 （令和2年度）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 （令和8年度）
	「福祉＋アーツ」事業参加者	99人	216人	338人			150人

令和5年度 事業の点検・評価シート

基本目標D 芸術文化の振興 基本方針 2 芸術文化の基盤づくり

① 氷見市芸術文化館の整備と運用（文化振興課）

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
○氷見市芸術文化館の指定管理 一般財団法人氷見市文化振興財団を指定管理者とし、施設の管理運営を委託した。 ・ホール稼働状況：開館302日のうち、利用日201日（稼働率67%） ・施設利用状況：利用件数2,715件、利用者数87,083人	○令和5年7月に開館1年を待たずに、入場者数10万人を達成した。 ○引き続き利用者数を維持するため、指定管理者である氷見市文化振興財団とともに、市民にとって魅力的で質の高い事業の提供と施設の適切な維持管理と運用に努める。 ○小中高生オリジナル音楽劇を開催するなど、市民が新たに芸術文化に参画する機会を提供した。また、市民の芸術文化活動の発表・練習の場を提供し、地域の文化活動を支援した。

数値目標	内容(指標)	実績値 (令和2年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	芸術文化館利用者数(イベント、貸館、講座を含むすべての利用者)	—	70,046人	87,083人			100,000人

② 芸術文化を支える担い手等の育成（文化振興課）

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
○専門人材による芸術文化館の運営 魅力ある芸術文化プログラム（公演など）を企画・招聘することができる総合プロデューサーを氷見市文化振興財団に配置し、芸術文化館の各種事業を企画・実施した。 ○指導者等の育成 学校等での参加型体験コンサート、出前寄席を実施したほか、ダンスワークショップや声楽家による合唱指導など様々な体験活動を実施した。	○アウトリーチ活動を実施できる個人・団体の掘り起こしを進め、新たなプログラムの創出を図るなど、引き続き芸術文化分野におけるアウトリーチ活動の取組みを進めることで、芸術文化活動を支える人材の確保に努める。

数値目標	内容(指標)	実績値 (令和2年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	「アウトリーチ活動」や「福祉＋アーツ」事業を担うことができる団体数	12団体	12団体	8団体			15団体

令和5年度 事業の点検・評価シート

基本目標E スポーツの推進 基本方針 1 生涯にわたりスポーツを楽しむ環境づくり

① 誰もがスポーツを楽しむ環境づくり（スポーツ振興課）

令和5年度実施事業（主な取組状況）	点検評価及び今後の方向性
○日本体育大学との連携による、保育士、保育教諭、小学校教諭（低学年）等を対象に、「子どもの運動指導研修会」を実施 ○スポーツ実施率の低い女性年齢層（20代～40代）を中心に、美容（B）・スポーツ（S）・食（M）をテーマとした、「HIMI×BSM+」の実施 ○スポーツ実施率の低い男性年齢層（50代～60代）に向けて、運動をはじめるきっかけづくりのため、「HIMI×Fes」を新規で実施 ○総合型地域スポーツクラブ「ふれんず」における、児童生徒を対象とした各種教室の実施 ○スポーツ少年団における各競技交流大会の実施	○氷見市のスポーツ実施率「成人のスポーツ実施率（週1回以上）」の割合については、令和7年度に市民アンケートを実施し把握する予定である。そのため、指標を用いた評価判断はできないが、本市では、一般的に女性より男性が運動やスポーツに親しんでいる割合が少ない傾向にある。 ○今後は、女性が運動する割合（実施率）を維持しつつ、男性が運動する割合（実施率）を増やすような取組みに積極的に取り組んでいく必要がある。 ○そして、本市がスポーツで元気で活力あふれ、いつも、どこでも、スポーツをしている街を目指したい。

数値目標	内容（指標）	実績値 （令和2年度）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 （令和8年度）
	成人のスポーツ実施率（週1回以上）の割合【市民意識調査より】	35.6%	—	—			50%程度

② たくましい子どもの育成と学校体育・スポーツ活動の充実（スポーツ振興課）【再掲】

令和5年度実施事業（主な取組状況）	点検評価及び今後の方向性
○市内各小学校において体力づくりノート「みんなでチャレンジ3015」を実施 ○市内の保育園、認定こども園で幼児対象の運動指導教室「出前体育屋」を実施 ※保育士・保育教諭も指導に参加し、補助の仕方や声掛け等を学び指導者の育成を行った。 ○日本体育大学との連携による、保育士、保育教諭、小学校教諭（低学年）等を対象に、「子どもの運動指導研修会」を実施 ○総合型地域スポーツクラブ「ふれんず」における、児童生徒を対象とした各種教室の実施 ○スポーツ少年団における各競技交流大会の実施 ○中学校運動部活動について、将来にわたりスポーツ活動ができる環境づくりについて検討	○令和5年度の体力・運動能力調査の結果、小5女子を除き県平均を上回った。また、本市の児童生徒は握力や50m走などの瞬発力、長座体前屈などの柔軟性が弱い傾向にある。しかしながら、運動好きな児童生徒の割合が小5男子以外では目標値である90%に達しなかった。特に中2女子に至っては68.8%とかなり低い割合となっており、スポーツ離れが危惧され、生涯スポーツを推進するうえで、マイナス要因となる。 ○まずは、幼少期に遊びながら身体の動かし方を学び、運動やスポーツの楽しさ、喜びを経験し、小・中・高校、そして生涯にわたりスポーツに親しむ環境をつくる必要がある。 ○また、子どもたちが個々に適した運動やスポーツができるような環境づくりを構築し、全ての子どもたちが運動やスポーツを楽しんでできるようにしていきたいと考えている。 ○スポーツ少年団活動を始める前の段階（4歳児から小学2年生）で、親子で体験できるスポーツ教室の機会を提供し、運動やスポーツに関心を持たせる必要がある。 ○市内小学校の親子活動に、スポーツ推進委員などを派遣し、ニュースポーツやゆるスポーツ「ハンギョボール」の体験会を積極的に実施し、運動が苦手な児童でもスポーツを楽しむことができ、運動・スポーツ好きの子どもを増やす必要があると考えている。 ○中学校運動部活動においては、平日は学校部活動として活動できる環境づくりを維持していく必要がある。（運動部活動の休日の地域移行）

数値目標	内容（指標）	実績値 （令和2年度）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 （令和8年度）
	（再掲）体力・運動能力の総合評価実技調査T得点【全国体力・運動能力・運動習慣等調査より】〈小5中2男女県平均との差〉	小5男子	-0.4	-3.6	+1.5		毎年度男子・女子とも県平均を上回る
		小5女子	+1.2	+0.6	-0.1		
		中2男子	+1.3	+0.9	+2.3		
		中2女子	+4.9	+4.2	+0.6		
	（再掲）「運動が好き」と回答した児童生徒の割合【全国体力・運動能力・運動習慣等調査より】〈「好き」「やや好き」と答えた児童生徒の割合〉	小5男子	89.9%	93.8%	92.6%		90%以上
		小5女子	85.0%	75.9%	89.2%		90%以上
		中2男子	89.2%	90.4%	87.9%		90%以上
		中2女子	78.9%	71.3%	68.8%		90%以上

令和5年度 事業の点検・評価シート

基本目標E スポーツの推進 基本方針 1 生涯にわたりスポーツを楽しむ環境づくり

③ スポーツを支える人・場(組織・施設)の最適配置の推進 (スポーツ振興課)

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
○スポーツ推進委員46名が、地域住民のスポーツ活動に対し、指導・助言を行った。また、自らが研修等に参加し、指導者としての資質の向上を図った ○日本体育大学との連携により、スポーツ少年団登録の指導者及び保護者を対象に研修会を実施し、子どものスポーツ環境の向上を図った。 ○市内の基幹スポーツ施設である、ふれあいスポーツセンター、市民プール・トレーニングセンター、B&G海洋センターに専門的な知識を有するスポーツ指導員を配置し、スポーツ教室等を開催した ○市内の基幹スポーツ施設の維持管理とともに効率的な運営を行うとともに、長寿命化計画に沿って改修や修繕を行い広く市民に快適に利用されるよう努めた。 ○スポーツボランティアの活用について検討した。 ○スポーツプラザひみのあり方について検討した。	○新型コロナが5類に移行され、各種スポーツイベント及び大会等は入場制限を設けずに実施し、コロナ前の利用者数に近づいてきたが、令和6年1月1日の能登半島地震の影響で、ふれあいスポーツセンターは指定避難所となり、市民プールは復旧工事のため閉館としたことで影響があり、基幹スポーツ施設の利用人数目標値には達しなかった。 ○学校開放体育施設の利用人数については、成人のスポーツ活動の減少に加え、震災の影響もあり運動やスポーツ活動を控えるムードとなったため目標値に達しなかった。 ○今後は、市民が快適にスポーツ活動に参加できよう、場所や指導員の確保などの環境づくりに積極的に取り組んでいきたいと考えている。 ○また、地域スポーツ活動の受け皿である「スポーツプラザひみ」の充実を図り、プラザひみが主催する交流イベントの充実を図りたいと考えている。 ○さらに、市内で開催する大規模なスポーツイベントや大会等に、スポーツボランティアの活用を推進する。

数値目標	内容(指標)	実績値 (令和2年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	基幹スポーツ施設の利用者数/年間 (ふれあいスポーツセンター、市民プール・トレーニングセンター、B&G海洋センター及び氷見運動公園)	平成30年度 359,019人	272,466人	270,383人			360千人
	学校開放体育施設の利用者数/年間 (小学校(旧小学校含む)、中学校、義務教育学校)	平成30年度 87,902人	69,457人	73,020人			88千人

基本目標E スポーツの推進 基本方針 2 競技力の向上のための環境づくり

① 競技力の向上を多面的に支援するシステムの充実 (スポーツ振興課)

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
○日本体育大学との連携による、保育士、保育教諭、小学校教諭(低学年)等を対象に、「子どもの運動指導研修会」を実施(発育段階における運動やスポーツ活動の必要性) ○市内の保育園、認定こども園で幼児対象の運動指導教室「出前体育屋」を実施(保育士・保育教諭も指導に参加し、補助の仕方や声掛け等を学び指導者育成も行った) ○(公財)氷見市体育協会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブがタイアップし、日本体育大学との連携により、講師を招聘し、公認指導者及び保護者等を対象に研修会を実施(パワー、コーチング) ○市内各中学校の運動部活動にスポーツエキスパート及び外部指導者の活用を実施 ○アランマーレ富山及び富山ドリームによるジュニア育成のためのハンドボール教室を実施	○全国大会出場競技数(高校総体、全中)が令和5年度では9種目と目標値を達成することができた。しかしながら、例年ハンドボール、卓球、野球など同じような種目だけが全国大会に出場している傾向にある。そのため、他種目についても全国大会に出場できるような環境を整える必要があると考える。特に、かつて、全国大会出場者を多く輩出していたバレーボール、新体操、ソフトテニス、自転車で全国大会出場者を輩出していきたいと考えている。 ○今後は、少子化が急速に進む中でも、子どもたちがスポーツ活動を継続していけるような環境を構築していく必要がある。 ○まずは、幼少期に遊びながら身体の動かし方を学び、運動やスポーツの楽しさ、喜びを経験し、小・中・高校、そして生涯にわたりスポーツを親しむ環境をつくる必要がある。 ○その後、トップレベルまで競技を継続できよう環境を構築していく必要がある。 ○その中で、指導者には、個人にあった、技術、トレーニング、コーチング、栄養などを理解することが重要である。

数値目標	内容(指標)	実績値 (令和元年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	中学生及び高校生の全国大会出場競技数/年間(全中及び高校総体)	8種目	6種目	9種目			8種目

令和5年度 事業の点検・評価シート

基本目標E スポーツの推進 基本方針 2 競技力の向上のための環境づくり

② 次世代育成のため持続的な循環体制の推進（スポーツ振興課）

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
○豊田合成株式会社から地域活性化起業人として吉村晃を派遣していただき、氷見市内へのスポーツ合宿誘致及び移住定住や雇用促進 ○次世代のトップハンドボーラーを育成するため、ハンドボール教室を年間を通して実施 ○富山ドリームス、アランマーレ富山の日本ハンドボールリーグ（ホームゲーム）の開催 ○大相撲氷見場所の開催（来場者：約4,400人）	○令和5年度には、地元男子ハンドボールチーム「富山ドリームス」に13名選手が加入し、内10名が県外の出身者であり、その多くが市内に居住している。また、加入した選手は、市内及び県内の企業に就職している。 ○アランマーレ富山及び富山ドリームの選手やスタッフによる小・中学生を対象としたハンドボール教室を開催している。 ○日本ハンドボールリーグの富山ドリームス、アランマーレ富山のホームゲームを開催した。 ○大相撲夏巡業氷見場所を開催し多くの来場者を集客し、ふれあいスポーツセンターを中心に市内は大いに賑わった。 ○今後は、ハンドボール競技に限らず、様々な競技でトップレベルを経験したアスリートが、本市において指導できる環境を構築していく必要がある。また、プロ野球選手による野球教室やトップランナーによるランニング教室の開催も検討していく必要がある。 ※子どもたちにとって、憧れのトップ選手と触れ合うことで将来の目標となり、実現できる勇気が湧いてくることを目的とする。

数値目標	内容(指標)	実績値	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	トップアスリートのIJUターン者数／年間 ※トップアスリート(全国大会で優勝やトップリーグを経験した人)	平成29年度 1人 平成30年度 1人 令和元年度 0人 令和2年度 0人	7人	13人			毎年度 1人以上

基本目標E スポーツの推進 基本方針 3 スポーツを通じた地域活性化の取組

① ハンドボールによるまちづくりと地域の活性化（スポーツ振興課）

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
○第19回春の全国中学生ハンドボール選手権大会の開催（福島県代替開催） ○ハンギョボール体験会の実施（ゆるスポーツ協会による体験会も実施） ○ハンギョボールに関連した商品開発、販売 ○アランマーレ富山によるアウェイ会場での氷見市のPR活動を実施 ○富山ドリームス選手による地域イベント、行事への積極的な参加	○令和5年度は、能登半島地震の影響により、春中ハンドの氷見市での開催を断念し、福島県で代替開催したため、実績値0人であり目標に達しなかった。また、ハンギョボール体験会については、参加者が543人と目標値に達していないものの年間12回開催していることは十分に評価できる。 ○今後は、春中ハンド、ハンギョボールだけでなく、富山ドリームスやアランマーレ富山を積極的に活用し、新たなハンドボールによるまちづくりと地域の活性化を進めていく必要がある。

数値目標	内容(指標)	実績値	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	春の全国中学生ハンドボール選手権大会の観客数／年間	平成30年 25,725人	10,092人	—			26,000人以上
	ハンギョボール体験会の参加者数／年間	令和元年 734人	138人	543人			800人以上

令和5年度 事業の点検・評価シート

基本目標E スポーツの推進 基本方針 3 スポーツを通じた地域活性化の取組

② スポーツによる交流人口の拡大（スポーツ振興課）

令和5年度実施事業(主な取組状況)	点検評価及び今後の方向性
○大相撲氷見場所の開催 ○氷見シーサイドマラソン大会、氷見キトキトウオーキングの開催 ○スポーツ合宿（大学のハンドボール、バドミントンなど）の誘致、実施 ○日本ハンドボールリーグ「アランマーレ富山」「富山ドリームス」のホームゲーム開催 ○富山ドリームスのプライベートゲームの開催	○トップスポーツの試合開催数については目標値に達することができたが、主要なスポーツイベントの参加者数については目標値に達することができなかった。しかしながら、令和5年度には、日本ハンドボールリーグや大相撲氷見場所開催に加え、ハンドボールを中心としたスポーツ合宿が数多く行われるなど、スポーツによる交流人口の拡大につながったと評価する。 ○今後は、各スポーツイベントの周知や申込などが簡素化できるよう関係機関と連携しデジタル化を推進していく必要がある。 ○スポーツ合宿の誘致については、関連部署や団体、民間と連携し積極的に取り組む必要がある。 ○トップレベルのスポーツを肌で感じることができる「みるスポーツ」に対応したスポーツ施設を整備し、国内及び国際スポーツ大会等を誘致し、市民への周知にも積極的に取組み、スポーツによる交流人口の拡大を図っていく必要がある。

数 値 目 標	内容(指標)	実績値	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値 (令和8年度)
	主要なスポーツイベントの参加者数／年間 (氷見市民体育大会、氷見シーサイドマラソン大会、氷見キトキトウオーキング)	令和元年 5,312人	3,421人	3,621人			5,500人以上
	トップスポーツ(プロ、実業団等)の試合開催数／年間	令和3年度 3回	2回	7回			3回以上